

「クリスマス・エンド」

登場人物

須永希喜(すなが きき)	次女
須永菊(すなが きく)	母
須永茂吉(すなが もきち)	父・故人
須永時雄(すなが ときお)	長男・ひきこもり
須永詩(すなが うた)	長女
須永隼(すなが すい)	三女
筑石猛(つくいし たける)	詩の同級生
星怜花(ほし れいか)	希喜の同級生
熊尾瑠璃(くまお るり)	従姉妹
／ キキ	／ 希喜の妄想

【1】
事の発端

希喜に照明が当たる。

母、菊。兄、時雄。姉、詩。妹、彗の四人が悲しみに暮れている。

希喜

お父さんが、死んだ。それが今年の冬の終わり。

もうすぐ春がやってくる頃のこと。お母さんは泣いた。

母、泣く。

希喜

お姉ちゃんは思春期だったこともあって、何かと対立していた父親の死に、
どんな表情をしたらいいかわからなくなっていた。

詩、曖昧な表情。

希喜

お兄ちゃんはインドアに拍車がかかり引きこもりになった。

時雄、拍車がかかる。

希喜

妹も、泣いた。

彗、泣く。

希喜

私は、ひたすら悲しかった。お父さんのことが好きだった。享年45歳。

子供が4人もいる家族で、あまりにも早すぎる死。もうすぐ高校生になろうとしていた私は、制服姿を父親に見せることができなかった。
春休みが終わり、私達には新生活が待っていた。最初に立ち直ったのは妹だった。

彗、立ち直る。

希喜

何せ、小学校を卒業して、中学生になるところ。一番、未来への期待に満ち溢れている頃。くじけてばかりもいらなかったんだろう。
妹の笑顔は、家族を和ませていった。

彗 和ませる。

希喜 母は、父の代わりに働きにできるようになり

母、働きにでる。

希喜 お姉ちゃんは、受験生となり、予備校に通い始め

詩、勉強を始める。

希喜 お兄ちゃんは、ネットゲームを始めた。

時雄、拍車がかかる。

希喜 私は、中学校生活を終え、高校にあがった。

そう、何かが終われば何かが始まる。始まったものは必ず終わる。この頃に私はもう、一つの決心をしていた。それは、目立ってはいけない、というものだ。

音楽。

須永家の慌ただし朝の風景。

希喜は、朝食を食べ、コーヒーを飲む。

母は、何かと慌ただしくしている。

彗、忘れ物をして一度帰宅。

菊、彗の面倒を見る。

詩、寝坊。菊と口論。

詩、彗、菊がいなくなった隙を突いて、時雄、朝食をもらいにやってくる。

この間、希喜は一人黙々と学校へ向かう準備を進める。

以下、希喜の一日。

役者、クロスとなっていく。

希喜 寝坊しない。忘れ物しない。ルーティンワークのように通学路を歩く。変化があつてはいけない。
A いっけな―い！遅刻遅刻！
希喜 あ。

AとB、ぶつかって転ぶ。

A B す、すいません！大丈夫ですか！？
A B ちよつとあんたどこ見てんのよー！
B B そ、そつちだつて飛び出してきたんじゃないか！
A B なあんですつてえー！

希喜 曲がり角は気を付けて曲がらないといけない。さもないと教室で運命の再開を果たしてしまう。
チャイム。

希喜 授業が始まる。そつなくこなす。
C はい、じゃあこの問題を・・・

D、ぼーっとしている。

○○！

D C ・・・・すいませんぼんやりしてました！

生徒、くすくす。

C ○○、頼んだ。

E はい。~~~~です。

C 正解。

希喜 目をつけられても、優等生でもない。

チャイム。

希喜

お昼休み。お弁当を食べる。

F

希喜ちゃん、一緒にお弁当食べよう

希喜

ここで、断ると・・・

屋上。K、L。

F

え、一緒に食べないの？

K

まじでー？

L

付き合ひ悪いー。

K

いこいこー。

希喜

と、なってしまう。一緒にご飯食べよう。

F

うん！

希喜

放課後。部活動はやっていない。万が一にも才能を見いだされてはいけない。早く帰らなきゃ！ただいまー！

希喜、帰宅する。

須永家。彗、勉強をしている。

彗

おかえりなさい！

時雄、部屋から入場。

時雄

おかえり、希喜。

希喜

ただいま。

時雄

ただいまのハグは？

希喜

したことないでしょ。

時雄

正解。

詩、帰宅。

詩 詩
時雄 ただいま。
おかえり、詩。ただいまのハグは？
嫌。

菊、帰宅。

菊 菊
彗 彗
ただいま～..
おかえりなさい！
遅くなつてごめんね、今、夕飯の準備するから。
手伝う！

菊、彗、退場。

希喜
物事には、いつか終わりがやってくる。それは、とても悲しいことで、だから、私は、終わらせない方法をたくさん考えた。
目立たないことにしよう。関わらないことにしよう。始まらないようにしよう。
そうすれば、終わることの悲しみを感じないですむんだから。

希喜、自分の部屋へ移動。

希喜 希喜
茂吉 茂吉
おお、おかえり。
・・・。どうやら相当疲れているみたいだ。幻覚が
幻覚じゃないぞ。お父さんだぞ。
・・・。物事には、いつか終わりがやってくる。それは、とても悲しいことで、だから、私は~~~~
ちよつと！希喜！希喜ー！へいへいへい！
うるさい！
やつぱり聞こえてたー。もう。
・・・。何？
何、って、何と聞かれたら、父。
・・・は？

茂吉 ……化けてでちゃった。
希喜 ……関わらないことにしよう。そうすれば、終わることの悲しみと・
茂吉 おい。おいー！

音楽。
転換。

【2】 異常な日常

彗、勉強している。
菊もいる。

希喜 お母さん。

菊 あら。どうしたの？

希喜 ……

菊 ん？

希喜 （菊の目線に茂吉が入るようにする。）

菊 どうしたの？

希喜 ……なんでもない。

茂吉 ほらね。

菊、退場。

希喜 ……彗！

彗 なーにー？

希喜 （彗との目線に茂吉が入るようにする。）

彗 どーしたのー。何？

茂吉 無駄だよ。

希喜 （ふんー！みたいな声にならない声）

彗 え、怖い。怖いよお姉ちゃん。

希喜 ……ここに、人が、いますよ、ね？

慧 え！？い、いないよ！？どうしたの？

希喜 いますよ、ね・・・？

慧 い、います！うわー、いるなー！いる！すごいなー！

希喜 嘘つかないでっ！

慧 ごめんなさい嘘をつきましたー！

茂吉 横暴だぞそれ

希喜 うるさいっ！

慧 ごめんなさいー！

希喜 慧じゃないっ

時雄、入場。

時雄 泣くな！愛しい妹たちよ！お兄ちゃんの胸に飛び込んでおいでっ

慧 泣くのをやめます

時雄 希喜はっ！？

希喜 間に合ってます。

時雄 ・・よしっ

時雄、退場。

茂吉 あいつ、相変わらずだなあ。

希喜 はあー・・・

慧 どうしたの？何があったの？

希喜 あの、さ、ここに、さ・・・お父さんいるよね・・・？

慧 ・・・・・

希喜 ・・・・・

茂吉 おす

慧 お姉ちゃん・・・病院、いく・・・？

希喜 飛ばないで思考！

慧 だって私には何も見えないんだもの！でも、お姉ちゃん真剣だから冗談じゃないだろうしでも嘘はついちゃいけないし！うううー！

時雄、入場。

時雄 どうした！お兄ちゃんになんでもはなしてごらん！
希喜 お兄ちゃんには言えない！
時雄 ショック！

詩、入場。

詩 うるせええええー！！！！
彗 ごめんなさーいー！
詩 勉強してんの私！
希喜 忘れてた・・・ごめんなさい。
茂吉 すまん。
時雄 俺も謝ろう。だが、もしかしたら俺は、詩に会いたいがために、騒いだのかもしれない、な。
詩 きもい。
時雄 フウーーーー！
詩 ごきぶりみたいな奴だな
彗 あのね、詩姉ちゃん。
詩 なに？
彗 希喜姉ちゃんがね
希喜 ちよ！ちよっと待って！
彗 でも、もしかしたら私が見えないだけかもしれないからさ。ね？
希喜 いや、その！
彗 ここに、お父さん、見える？
茂吉 （気を遣って、彗が示した場所へ移動）
詩 ……おつかれ。
希喜 おつかれさまですうううう

詩、退場。

時雄 そうか・・・気づいてやれなくてごめんな。

希喜 お兄ちゃん・・・？
時雄 父さんと、仲良かったもんな。寂しかったんだよな。さあ、飛び込んでおいで。
希喜 遠慮しておきます。
時雄 いけず。

時雄、退場。

慧 誰も、見えなかったね。

茂吉 元気だせよ。

希喜 ・・・・なんてね！お父さんが見えるなんて、冗談でしたー！
慧 え！

茂吉 おいおいおい

希喜 ばかばーか！だまされてやんの！

慧 ひどい！心配したのに！

希喜 いい子すぎるのも考えものってことだよ！

慧 だっていい子じゃなきゃサンタさんこないじゃん！

希喜 ・・そっか。だめだー、お姉ちゃん、悪い子だから。あはは。

菊、入場。

菊 慧、夕飯並べるの手伝って。

慧 はーい！

菊、慧、退場。

茂吉 ・・希喜さん？

希喜 ・・・・

茂吉 見えないなんて、嘘だよな？ね？

希喜 嘘に決まってるじゃん！・・・なんで・・・なんで私にしか見えないのさ・・・

茂吉 さあ・・・仲良かったからかな。

希喜 もう、こういうの嫌なのに。

茂吉 希喜。
希喜 お父さん
茂吉 どうした？
希喜 死ぬ時、苦しくなかった？
茂吉 ……ああ。

転換。

キキ、入場。

キキは、希喜の理想の姿。

キキ あ。

希喜 え？

キキ やつとちよつと本音を言ったね？

希喜 ……別に。

キキ お父さんが化けてでてから、ずっと聞きたかったんだもんね。

希喜 うるさいな。

キキ お父さん。

茂吉 どうした？希喜。

キキ 死ぬ時、苦しくなかった？

茂吉 ……ああ。

キキ ……よかったあ。

茂吉 そんなこと、心配してくれてたのか。

キキ うん。だって…

茂吉 希喜は、いい子だな。

キキ お父さん…

希喜 やめてよ

キキ ほら。簡単じゃない。

希喜 簡単じゃないよ。

キキ やらないで後悔するよりやって後悔した方がいいじゃん。だから、今、聞いちゃったんでしょ？わかるよ。私のことだもん。

転換。

家族揃って夕ご飯。
希喜の席に、キキ。

【3】 理想の生活。

OPと同じ朝の風景。
希喜の隣にキキもいる。

希喜　だ、だめだよそれはー・・

茂吉　お願い！一生のお願い！死んでるんだけどね

希喜　それ面白くない上に悲しい

茂吉　ごめん。

希喜　学校までついてきたら、面倒見れないよ

茂吉　迷惑かけないから！お父さん、希喜と離れたらどうなっちゃうかわからないじゃない！

希喜　そうかもしれないけど・・！

キキ　絶対、勝手なことしないでね！

茂吉　ああ、しない！勝手なことは、しない！

希喜　あ！

詩　希喜、あんた今日遅いね。

希喜　え！？

詩　お先ー。

詩、退場。

希喜　もー！

通学路。

希喜、小走り。

希喜　遅刻しちゃいそうじゃない！お茂吉さんのせいだよ！
茂吉　ごめんごめんご。

希喜
むかつく！

Bのみ、入場。
OPと同じアクトを。

希喜
いけない！曲がり角だ！気を付けて曲がらないと大変なことに！

キキとB、ぶつかる。

B
す、すいません！大丈夫ですか！？

キキ
ちよつとあんたどこ見てんのよー！

B
そ、そっちだつて飛び出してきたんじゃないか！

キキ
なあんですつてえー！

希喜
何してんの！

チャイム。

C
じゃあこの問題を・・・

キキ
はい！

C
須永。

希喜
え！？あ、はい！

茂吉
がんばれ、希喜！

希喜
くくく、です・・・

C
正解。

茂吉
よしよし。

チャイム。

茂吉、どこかへ退場。

怜花
希喜ちゃん、お昼一緒に食べよう。
キキ
いいよ！

怜花 わ、やったあゝ
キキ たまには屋上で食べようよ！
希喜 え、え
怜花 さ、ごはん食べよ。
希喜 うん・・・あれ・・・？お父さん・・・？
転換。

【4】
ポルターガイスト

学校。猛と詩。勉強している。
茂吉、見ている。

いやあ。12月ですねー。
だね。

寒くなってまいりましたね。
本当にね。

身も心も懷も、つって、ね！
うん。どしたん？

別に、別に何も。別に。

いつもの須永と違うよ

い、いつもの私の何を知ってるっていうんだし！

いや、ごめん、そんなつもりじゃ。

ああ、あ、私こそごめん、そんなつもりじゃ。

どうしたの？何かあった？

ううん、ただ、もうすぐ、今年も終わるなあ、つて。

そうだねー。

もうすぐ、だね。

だねー。

クリスマス。

センター試験。え？

猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩

センター試験。

センター試験。

言っていないよ。クリスマスだなんて、言っていないよ。クリスマス。

そうだね。受験生なのに、クリスマスとか言つてちやいけないよね

そうだよーふふ。センター試験とクリスマスを聞き間違えるなんて、どうしたのかしらっつ俺、勉強しすぎておかしくなったのかな・

そ、そんなことないよ！

だって、センター試験とクリスマスって、一文字も同じ文字、ない……偶然だよ！きつと偶然！

最近模試の成績もよくないし・・・

言いました！私、言いましたクリスマスつてえー！

そうなの？あ、それで身も心も寒いつて言ってたんだ。

そう！そう！

詩も恋人はいないんだ。

・
・うん。
猛くんは？

俺だつていないよ。

クリスマスの予定は？

勉強に決まってるじゃん。

そつか。それじゃあ、さ・

あ、やべ、予備校いかなきゃ。じゃあ、またね。

またねー

猛、退場。

茂吉、後をつけて退場。

・
・
はあ。

轉換。

怜花、いる。希喜、入場。

怜花 あ、希喜ちゃん。
 希喜 ねえ！
 怜花 もうすぐクリスマスだねえ。
 希喜 何か、あの、さ！
 怜花 いやーどきどきするよね
 希喜 話を聞いて！！
 怜花 はい。
 希喜 変なこと起こってない！？
 怜花 何を言っているのかさっぱりだよ。
 希喜 なんだろう、こう、物が宙に浮いたり、誰かに肩ひつぱられたり・
 怜花 ないよ。
 希喜 じゃあ誰かにそういうことが起こったりとかは！？
 怜花 ないよー。何？どうしたの？
 希喜 うー・なんでもない。
 怜花 嘘だー、絶対なんでもなくないよね。
 希喜 なんでもないでござる。
 怜花 あ！忍者だ！
 希喜 にんにん。
 怜花 あはは。
 希喜 敵の隠れ身の術を見破ろうとしているところなのでござる。にんにん。
 怜花 あはは。あはは。
 希喜 では、拙者、忍者だけに、どろんします。
 怜花 ごまかされないよ？
 希喜 恥かいただけじゃんか！
 怜花 何？心霊現象でも探しているの？
 希喜 そういう、ことかな。
 怜花 心霊現象ねえ・・・

奥を猛が通りすぎようとしている。
 茂吉、希喜のスカートを猛側に向けてめくる。

茂吉

いまだ！

猛

ぶ、ぶわああああ！

怜花

今、希喜ちゃんの身に起きている現象は？

希喜

え？

茂吉

よつし。

希喜

あつ！

怜花

どうしたの？

希喜

なんでもない！ごめん！またね！

怜花

あ、うんー！

希喜、茂吉、退場。

怜花

静電気・・・？

猛

いちごの・・・パンツ。

転換。

【5】ラブロマンス

茂吉、希喜。

希喜

ちよつと！

茂吉

（振り返る）

希喜

お父さんだよお父さん！

茂吉

あ、びつくりした。お父さんか。そうだ、希喜には見えるんだったな。

希喜

白々しい！

茂吉

（かわいいリアクション）

希喜

キーンッ！

茂吉

お前、こんな時に誰かきたらあやしまれるぞ。一人でテンション高い人がいるって、不審がられるぞ。

希喜

お父さんのせいでしょう！いきなり何してくれんの！？

茂吉 スカートをめくった。

希喜 なんで！お子様ですか！なんで、あんなことしたの！

茂吉 父さんな、希喜には幸せになってもらいたんだよ。

希喜 ……うん。

茂吉 だから、スカートをめくったんだ。

希喜 ……つながらないよー、因果関係が見えないよー

茂吉 希喜。お前は、お父さんが死んでから、身の回りに何も起きていない。ラブロマンスも、アドベンチャーも、ミステリーもない。無難だ。並、いや、並以下だ！

希喜 だからって、そんな風に無理矢理何かを起こさなくつても！

茂吉 大丈夫だ。お父さんは小説家だ。任せておきなさい。

希喜 私は、別に、日常に、何も起こらなくていいもの。

茂吉 希喜……。

希喜 ごめんなさい。

茂吉 こんなに頼んでるのに駄目か？

希喜 頼んでないよね！？

猛、入場。

猛 あっ。

茂吉 うわ、見られたー、一人でデンション高いところ見られたー

希喜 くそおやじ……

猛 あのっ

希喜 はい！？

猛 何年生ですか……？

希喜 い、一年ですけれど……

猛 そうなん、だ。

希喜 はあ……

猛 名前、教えてもらえないかな？

茂吉 須永茂吉です。

希喜 ……ちよ、ちよっとそれは、すいません

猛 え、なんで！名前くらい！

希喜 し、失礼しますー。
猛 まってよ！

キキ、入場。

キキ 須永です。須永キキっています。
希喜 あっ！・・・失礼しますっ。

希喜、キキ、茂吉、退場。

猛 須永・・・？

転換。

【6】家族の肖像

リビング。彗 勉強している。詩、座っている。

詩 それでそれで、何て言ったと思う？

彗 えー、わかんないよー

詩 「いつもの須永と違うよ？」だってー！
きゃー

彗 いつも、って、いつもって、どんだけ私のこと見てるんですかのー！
猛くん、恋人いないんだって。

詩 そうなんだ。じゃあ、チャンスだね・・・あのさ、お姉ちゃん・・・

茂吉、入場。

茂吉 ただいま。

希喜、入場。

希喜　ただいま。
茂吉　おかえり。
　　あ、おかえりなさいー！
希喜　（小声）お父さんそれいつもやるつもり
茂吉　うん。
詩　　あ！ねえねえねえ希喜、聞いてくださいよー私の話を聞いてくださいよー
希喜　お断りします。
詩　　これは命令だ。聞きなさい。

希喜、詩、退場。
　　彗、ちよつと寂しそくに、勉強再開。
菊、入場。

菊　　ただいまー..
　　あ、おかえりなさいー！あれ？早いね？
　　うん、パート早退させられちゃった。
　　え、どうしたの？
　　あまりにも顔色が悪いから帰れって言われた。
　　あー。
　　うーん。お母さん、全然元気だよね？
　　え
　　ほら。顔色、超いいよね？
　　う、ううーん。
　　ほら。せいやつ、せいやつ
　　だ、だめだ！よくないよ、休んでよかったよ
　　えー、どこが、全然わかんないー
　　お母さん、体壊したらいやだよ。
　　大丈夫。大丈夫。
　　お母さんー
　　せいや、せいや

菊、退場。

もう・・・

彗、勉強に戻る。

菊、入場。

あ、そうそう、彗。

何？

何隠してるの？

えっ

お母さんに隠し事できるわけじゃないでしょうに

別に隠してたわけじゃないよ

はいはい。で？どうしたの？

・・・今日、友達と喧嘩しちゃったんだ。
どうして？

授業中に寝てる人がいて、起こしてあげたの。そしたら、疲れてたらしくって、怒られちゃって。そしたら、そのせいで先生にもばれて、その人も怒られちゃったの。で、お前のせいだ、って。

そっかー・・・うーん。彗は、それを、いいと思ってやったんだよね？
うん。

じゃあ、それでいいんじゃないかな？

・・・うん・・・

でも、悪いことしたとも思ってるわけだ。

うん！

じゃあ、きちんと謝ったらいいんじゃないかな？

そうなのかなあ・・・

彗の気持ちが一番晴れる方法を探したらいいんだと思うよ？

・・・うん、謝ってみる。

そうそう。彗はそれでいいんだよ。

詩、希喜、茂吉、入場。

詩　　なんだ。相談したかったんなら早く言ってくれたらよかったのに。
　　彗　　え！お姉ちゃん、どうして！
詩　　お兄ちゃんからメールが来たの。

時雄、ガッツポーズ。

菊　　口で言え。
詩　　彗がいい子なのは、みんな知ってるから。
茂吉　　そうそう。
希喜　　まったくもう

キキ、入場。

キキ　心配性なんだから。
　　彗　心配性？
キキ　自分が正しいと思ったことしたらいいんだよ。家族みんな、彗の味方なんだからさ。
　　菊　　そういうこと。
詩　　恥ずかしげもなくよくそういうこと言えるよなあ。
キキ　私の心が純粹だからです。
詩　　汚れてるって言いたいのか！？

希喜　あ。

キキ　いいでしょ

希喜　・・・

茂吉　希喜？

キキ　お父さん！・・・っていききたいんですよ？

希喜　別に・・・

キキ　でも、もうお父さんはいないんだよ。もう、次へ進まなきゃ。

希喜 うるさい！
茂吉 大丈夫か？
希喜 ……（退場）
茂吉 ……思春期、か。

転換。

【7】恋の病

勉強中。猛、詩、茂吉。

猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛
・・はあ・・
どうしたの？
・・いや、ちよつと、ね
どうしたの？
あのみさ・・・
うんうん。
いちこの・・

茂吉、猛の胸囲を後ろから抱きしめてつかむ。

猛 詩 猛 詩 猛
うっ
だ、大丈夫！？
大丈夫・・なんだか、胸が、苦しくて。
いちこのせい？いちこの、何？
いちこの・・いや、なんでもない、忘れてくれ。

間。

詩 猛
あのみさ。
うんっ

詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛 詩 猛

高1にいるけど・・・

あ、多分うちの妹だよ。

なに？どしたの？

そうだけど？

え、ええー！？

うんうんうんうん、全然だめじゃないよー！

ど、どこで、勉強するの？

え、ええー!?

だめじやな

いないいないー

いるんじゃないかなー？

……家に、二人きりを望んでいる！？

う、
うんー！

お、お、女の子の家にいくなんて約束を取り付けてしまった……どうしたんだ、俺！

このセリフの間に、茂吉、猛を持ち上げて移動。
怜花、入場。

怜花
う、うわあ！人が、浮いている！

怜花、退場。
希喜、入場。

希喜
茂吉
希喜
お、お父さん！何してんの！？
ラブロマンス。
は！？

猛と茂吉と、希喜。

猛
希喜さん！
は、はい・・・！
突然また、ごめんなさい。
希喜
いえいえいえ・・・
猛
自分でも、よくわからないんです。
希喜
何がですか？
猛
わからないんだけど・・・希喜さんのことが気になってしまつて。
希喜
多分それ、心霊現象ですよ。
猛
初めて会った時以来、胸を、何かが締め付けているんです・・・

茂吉、猛の胸部を締め付ける

猛
ひよっとしたら恋なのかもしれない。でも、今まで僕は、恋をしたことがなくつて・・・わからないんです！
希喜
あの、本当、すいません。
猛
僕は、須永詩さんの友人です。また、話にきてもいいですか？
希喜
できれば来ないでほしいです。

猛
できれば。可能性0ではない、ということですね！よかった！僕の名前は、猛、といいます！では、また！

猛、退場。

希喜
めんどい・・・

茂吉
彼の恋のためなら

希喜
力づくじゃないの

茂吉
力づくではない！彼だって希喜のこと気になっていたんだから。

希喜
気にさせたんでしょ！しかも、あの人って、お姉ちゃんの好きな人なんじゃ・・・？

茂吉
気づいた？

希喜
えー！わざとなの！？

茂吉
姉妹での、愛憎うずまくラブロマンス。

希喜
やめてえーっ・・・！

怜花、入場。

怜花
ねえねえねえ、今の人、誰？

希喜
・・・知らない。

怜花
え！知らない人からアプローチされてるの？

希喜
いや、そういうわけじゃ。

怜花
うわー。なにそれ、うわー。わけてー！

希喜
不本意だから！ほんと！

怜花
わけてー。わけてよー！

希喜
がちだ！やめて！

茂吉
もてもてだな。

希喜
うるせえー！

怜花
恋人いないの？

希喜
いないよ！

怜花
なんで？！

希喜
だって、どうせいつか別れるでしょ？

怜花
え・・・別れるの・・・？別れないよ？

希喜　なんで言い切れるのさ。
怜花　え？だって、ねえ？
希喜　ねえ、じゃなくてさ。いらないの。
怜花　寂しくない？
希喜　じゃあ別れた時のこと、想像してみ？
怜花　・・・あつ、い、いやーだー
希喜　でしょ？だから、いいの。

希喜に着信。

時雄　あ、もしもし、希喜？大変なんだ。お母さんが、倒れちゃって。
希喜　え！
時雄　とにかく、急いで帰ってきて！
希喜　わ、わかった！
茂吉　どうした？
希喜　お母さんが、倒れた、って
茂吉　なんだって！？どうして！？
希喜　そこまでは聞いてない
茂吉　よし、急いで帰ろう！

キキ、入場。
希喜、動かない。

キキ　うん！
茂吉　・・・希喜？
キキ　ちよつと
希喜　・・・
茂吉　どうした？
キキ　どうしたの？
希喜　いやだ、怖い
キキ　怖がつてる場合じゃないでしょ

希喜 私がいったって、できることなんてないよ
キキ 本当は早く駆けつきたいんでしょ
茂吉 まだ何が原因で倒れたのかわからないじゃないか
希喜 きつと、お姉ちゃんもいくよ
茂吉 ー、そうかもしれないけれど・
キキ 私が、どうしたいかでしょ？
希喜 私は・行くのが、怖い。
キキ ・・・お母さんまで、失っちゃうかもよ？
希喜 ・・・うるさい！
キキ うるさいって・
希喜 わかってるよ、でも、でも、怖いんだからしょうがないじゃない！
キキ そんな場合じゃないでしょ？
希喜 わかってる・・わかってる・
キキ ・・まだだめなんだね。

キキ、退場

茂吉 希喜。
希喜 何・・？
茂吉 お父さんも一緒にいくから。な？

転換。

【8】家族会議

リビング。時雄以外の家族が揃っている。

菊 詩。
詩 はい。
菊 希喜。
希喜 はい。

菊 彗。

彗 はい。

菊 時雄。

時雄（声） はい。

菊 よし、全員そろったわね。

詩 そろってない！そろってないよー！でてこいよー！

時雄 （ちよつとでる）これが限界だ。

希喜 いいじゃない。

茂吉 父。はい。（寂

菊 では、須永家、家族会議を始めたいと思います。

彗 はい。

菊 まず・倒れてすまん。

彗 謝ることじゃないよ！

希喜 うん・・

詩 でも、無理するのは悪いことだよ。

菊 そうだね。反省しました。ごめんなさい。そんなわけで、ちよつとの間、パートを休むことにもなっちゃいました。

詩 そつか・・。

菊 そして、それだけですまない問題がでてきました。それが、今日の議題。

詩 何？

菊 12月が、やってきましたね。

彗 そうですね！

母 12月といえ

彗 クリスマス！

詩 ああああ

菊 我が家では、お父さんが亡くなって、初めてのクリスマスです。

詩 静まる。

時雄（声）

詩 みんな、元気出せよ。

時雄 おめーは出てきてから言えよ！

時雄 いやだ！

菊 お母さんが倒れちゃったのは、夜にやってる仕事で、忙しくなってきたからなんです。そして、こっちの仕事は休むわけにはいかない。
詩 や、そんなことないでしょ、体大事だよ。
菊 だからあなた達に相談してるの。
詩 よくわかんないよ。
菊 そうね。順序を追っていきこう。まず・・・今年・・・うちに、サンタさんはきません。
間。

詩 えー！

詩 いやいやいや・・・

希喜 どうして！？なんでこないのサンタさん！

時雄 妹達が悪い子だとも言いたいのか！

菊 落ち着きなさい。

時雄 これが落ち着いていられるか！（暴）

詩 ないわー。なんでこないんだし。

詩 ああ！

時雄 どうした？！

詩 私が・・・悪い子だから・・・！？

詩 まさか！

時雄 サンタのやろう！うちの妹の何を知ってるっていうんだ！でてこい！（暴）

菊 そんなことないわ。彗はいい子だよ。お母さんが一番わかってるよ。

詩 じゃあどうして！

詩 もしかして・・・

詩 あんたが悪い子だから！？

詩 希喜！

時雄 違うよ！・・・誰か擁護してよ！

希喜 お前はいい子だよ（囁）

茂吉 ぬあん！

希喜 ぬあん！

詩 どうしたの？

希喜 ここ何年か、もしかしたら、って思っていたことがあるの。

彗 え・・・？な、何・・・？

希喜 なんかもんなさういの・・・サンタさんが、いない、って。

詩 そんな、まさか。

彗 わ、私も、友達とかそう言ってる！親が・・・サンタなんだよ、って・・・！

詩 ばか、そんなことあるわけないでしょ！サンタだよ！？

時雄 俺もその噂、ネットで見たことがある・・・

希喜 親が・・・サンタなの・・・？

菊 ……そうよ。

詩 そんな・・・

彗 ううう・・・お兄ちゃん！

時雄 泣くな、妹よ

菊 お父さんが、サンタだったの・・・

希喜 お父さんが・・・

茂吉 隠してて、すまない。

時雄 だから今年、サンタがこないのか・・・

菊 そういうことよ。

時雄 うちが、親父がいなくなつて、貧乏だから・・・

詩 おめー働けよマジで

時雄 親父・・・！

彗 サンタさん・・・いないんだ・・・

間。

菊 ん？違う違う違う。

彗 え？

菊 サンタ、いなくないよ。いるいる。

詩 ん？ん？どういうこと？

時雄 何何何！

菊 だから、お父さんが、サンタさん。違う、これじゃだめなのか。サンタさんが、お父さん

詩 は？ん？は？

菊 馬鹿なの！？

詩 いや、わかりにくいよ！
 菊 だから、お父さんがサンタさんなの！
 彗 情報が増えてないよう。ううう。
 希喜 どういうこと？
 茂吉 そのまんまだよ。
 希喜 え？
 詩 お父さんが、サンタ？
 菊 だから、仕事を誰かが継いでくれないと、この地域のサンタいなくなっちゃうんだよね。
 希喜 ……は？
 茂吉 ほうほうほう。
 希喜 そんな笑い方いままでしてなかったでしょ！
 彗 お母さんが夜してた内職って、ひよっとして
 菊 子供たちへのプレゼントの準備してたの。
 希喜 そうだったんだ…
 菊 心配かけて、ごめんね。
 彗 そんなことないよ。
 詩 それで、どうするのさ？
 菊 そうね、本題に入りましょう…
 彗 はい
 菊 あなた達の中から、お父さんの仕事を継ぐ人を一人、選ばなければならないの。
 彗 お仕事？
 希喜 普通に考えれば…
 時雄（声） 俺は無理だぞ
 詩 がんばってよ
 時雄（声） 無理無理無理
 詩 え、じゃああたし！？
 菊 お兄ちゃんができないとなると…
 詩 いやいやいや、無理だよ、いろいろ忙しいし
 希喜 私も、ちよっと…
 彗 私、がんばるよ！
 菊 うーん。彗にはちよっと無理かなー

子供扱いだ！

それかみんなで手分けするか、つていう感じかしら・

それが一番無難じゃないかな・

それなら、私も手伝えるしね！

うん、お母さん、ちゃんと寝なよ。

・・部屋に持ち込んで良いなら俺もやるよ。

・・ありがとう！

これで、少しは楽になる？

うん。

あと、家事も、もっと手伝うよ！

あ、それなんだけど、実は、お手伝いを呼んであるの。

お手伝い・・？

事情は明かしていないけれど、クリスマスに向けて。

チャイム（玄関）

来たわ。はい

菊、瑠璃を迎える。

瑠璃　こんにちは。

菊　お久しぶりー。

瑠璃　あ！瑠璃さん！

詩　慧ちゃん、久しぶりー。

瑠璃　なんだ、瑠璃ちゃんか。

詩　なんだってなんですか。

瑠璃　ちよつと重い話をしてたんだよ

時雄　あれ、時雄さん、まだ引きこもってるんですかー？

瑠璃　うん。

瑠璃　まったくー。希喜ちゃん、久しぶり。

希喜　・・・・久しぶり。

転換。

【9】変化

希喜、彗、茂吉、いる。
詩、スーツを着ている。

茂吉 詩・・・！

希喜 おお、どうしたの、お姉ちゃん
似合う？

彗 うん、似合う！

茂吉 大人になったんだなあ。

彗 どうしたの？急に。

詩 私、就職します。

彗 え！

茂吉 え！

詩 だって、受験とかしてる場合じゃないでしょ

希喜 でも、お姉ちゃんあんなに大学に行きたがつて

詩 お父さんが死んで、お母さんが倒れて、お兄ちゃんが引きこもって、私が働くしかないじゃない。

希喜 そうかもしれないけども・・・

彗 え、でも、さ

詩 それに、瑠璃ちゃんがきてくれて、家の中のことそんなに気にしなくてよくなったしき。

瑠璃 じゃあ、いつてらっしゃい。

詩 じゃあ、いつてきます。

彗・希 いつてらっしゃーい・・・

詩、退場。

希喜 お姉ちゃん、偉いなあ。

茂吉 いつの間にか、大人になって・・・

・・・・

時雄 うおおおおお

希喜 お、お兄ちゃん!?

時雄 どうしたの!? ふ、普通の格好して・・・!

時雄 外に・・・出る!!

希喜 お兄ちゃん・・・?

時雄 だ、だめだよ! そんなことしたら、命が!

時雄 かまわない!

時雄 え!?

時雄 俺が、外に出て、普通に生活できて、働けたら、詩は、就職するなんて言い出さなくて済んだんだ!

希喜 無理だって・・・

時雄 ぐあああネガティブなことを言うな!

時雄 だって、今だって、もうぼろぼろじゃない!

時雄 こんな痛み、詩のことを思えば!

希喜 落ち着いて! 現実には傷なんて負ってないから!

時雄 負けてたまるか・・・

時雄 お兄ちゃん

時雄 時雄

時雄 無理しすぎないで? ちょっとずつ、始めていこうよ。お兄ちゃんが普通に外に出れるだけでも、うれしいよ。

時雄 ・・・・ありがとう。

時雄 じゃあ

時雄 だが、それじゃだめだ。これでも遅いくらいなんだ。無理しなきゃ、追いつかない。

時雄 お兄ちゃん!

時雄 ありがとう、時雄。おかげで決心がついた! うおおおお

瑠璃、入場

瑠璃 ほら、がんばってー! (ひっぱる)

時雄 うわああー(出る)

瑠璃 はい、でれたー!

希喜 力尽く・・・

時雄 彗 お兄ちゃん、でれたじゃない！
ああ・・・ありがとう、瑠璃！よし、いつてきます。詩だけじゃない。彗 もちろん、希喜 お前のためにも。いつてきます。

時雄、退場

彗 お兄ちゃんまで・・・

瑠璃、家事に戻る。
入れ代わりに菊、入場

彗 お母さん！寝てなくて大丈夫なの？

菊 うん。寝たら治った

希喜 そんな簡単に！？

菊 疲れてただけなもの。

彗 でも、したら、もっと安静にしていた方が

菊 大丈夫だよ。自分の体のことくらい自分でわかります。

希喜 でも・・・

菊 内職をみんな手伝ってくれてて、家事も瑠璃ちゃんが手伝ってくれてる。

彗 お母さんだけ休んでるわけじゃないじゃない。パートくらい。

菊 倒れたら、いやだよー。

彗 無理はしないようにするから。

菊 約束だよ！

彗 はいはい。いつてきます！

菊 彗・希 いつてらっしゃーい・・・

瑠璃、退場

彗、とぼとぼ勉強しに机へ。

茂吉、希喜を呼び出す。

茂吉

希喜。

希喜

お父さん。

茂吉 お前は、どうするんだ？

希喜 ・・別に。

茂吉 いいのか？それで。

希喜 私が、何かする必要、ないじゃん。

茂吉 どうして。そんな子じゃなかっただろ。

希喜 いやなの！

茂吉 何がだ？

希喜 何かを始めたり、好きになったり、そういうのは、もういいの！

茂吉 どうして。

希喜 終わったり、失った時、悲しくなるんだもん！

茂吉 ・・でもな、必ず、終わりはくるものなんだよ。それでも、必ず、何かが残っていくんだから

希喜 そんなの綺麗事だよ

茂吉 希喜。

希喜 物語とかだったらそれでいいよ？でもさ、でも死んだら終わりなんだよ。いつかは忘れられちゃうんだよ。そんなの、嫌だよ。

茂吉 そうか。俺が・・

希喜 お父さんのこと、大好きだったんだよ。だから、また会えて嬉しかったよ。でも、きっといつかいなくなっちゃうでしょ？

茂吉 それは、わからないけれど

希喜 だから、喜びたくないんだよ。嬉しいって思ったら、いつか悲しいがやってくる。

茂吉 わかった。

希喜 ・・・お父さん。

茂吉 希喜の考えてることはわかった。でも、もう始まってしまっているものはどうする。

希喜 ・・始まってるもの？

茂吉 家族だ。

希喜 家族・・。

瑠璃、入場

瑠璃 希喜ちゃんっ

希喜 うわっ。

瑠璃 ああ、ずっと思おうと思ってたことがあるの
希喜 な、何？

瑠璃 この家に来てからずっと感じていたんだけど・・・
うん・・・

瑠璃 希喜ちゃん、幽霊にとりつかれてるよね？

希喜 え！？（茂吉を見る）

茂吉 とりついていない！とりついていない！

瑠璃 私、靈感あるんだよね・・・

希喜 そうなの！？すげーな！

茂吉 ひよっとして、わかるのかな・・・？

瑠璃 うん、わかるの。

希喜 しゃべれてる・・・

瑠璃 あなたは？

茂吉 父です。

瑠璃 ああっ！お父さん！？

茂吉 そう！そう！

瑠璃 あ、見えてきたーわかってきたー。

茂吉 うわ、霊能力者って本当にいるんだ！うわー！

瑠璃 なんで幽霊になってるんです？

茂吉 いやそれが僕にもさっぱりですね

瑠璃 あ、そうだそうだ、お父さん、コーヒードンにあるかわかります？

茂吉 あ、それは台所の・・・

瑠璃、茂吉、話しながら退場。

希喜 お父さん！お父さんー！・・・ええー・・・まあ・・・見える人がいたら、嬉しいか・・・

瑠璃 お姉ちゃん。

希喜 ん？何？

瑠璃 お姉ちゃんは、今日、でかけたりする？

希喜 ううん、特には・・・

瑠璃 そっか。

希喜 何？どっかいけってこと？

瑠璃 違うよー。

詩 猛 詩 猛 詩

ああー、あー、あーあ、私、クリスマス、勉強するから、って、

色んな誘い断っちゃったんだけどな――

じゃ、じゃあ、勉強会、する？

する！するする！

じゃあ、クリスマスに、須永の家で

あつ！

え？

うち、ちよつと使えなくなつてしまったの！だから、どこか外で、勉強するとか・
それじゃだめなんだ！

え？

須永の家じゃなきや、嫌だ！

な、なぜ……まさか、下心が……！ いやそんなまさか、猛くんに限って……

だめかな？須永の家・

・ ・ ・ くっ、じゃあ、他の日は？

他の日・・妹さんは、いる？

他の日！？あ！他の日の方が、いないよ！きつと！

そうか・うん、クリスマスがいい

な、
なぜだ！

頼む！この通り！

く、クリスマスだけはだめなんですー！

詩、退場。

なぜだ、須永……くそう、どんな手を使つてでも、必ずいくぞ！ 須永家！

怜花、通る。

猛、捕まえる。

猛 君、須永、希喜さんの友人だよね？
怜花 そうですけど？
猛 須永さんの家、知ってる？

轉換。
時雄、肩を落として通り過ぎる。

【11】クライマックス

希喜、慧、内職をしている。
瑠璃、入場。

瑠璃 あら、結構あるんだねその内職
慧 そうなんです
瑠璃 私も手伝おうか？
希喜 これは、私たちの仕事なんで、大丈夫ですー
瑠璃 そ、そう？そっかー、わかったー。必要だったら言っ
希喜 ね！

瑠璃、退場。

慧 あ、そうか
希喜 どうしたの？
慧 サンタの仕事してるってばれちゃいけないからか
希喜 ・・あ、そうか。
慧 え？！違う理由で拒絶したの？
希喜 どうかなー。

内職に戻る二人。
時雄、入場。

時雄 ただいま、妹達よ。

時雄 おかえりなさい！

時雄 はあうっ

時雄 ど、どうしたの？

時雄 これが・・おかえりなさい・・！いつぶりだろう、言われるのは・・おかえりのちゅーを

時雄 おかえりなさい

時雄 はあうっ

時雄 きめえ。

時雄 あ・・お兄ちゃん、それで、どうだった？

時雄 あ、うーん、今日は、だめだったかなー

時雄 ・・！そうだよねー、だめに決まってるよね

時雄 お姉ちゃん？

時雄 だって、ひきこもりの高卒でしょー？ほいほい雇ってくれるようなバイト先なんてないでしょー

時雄 ・・そ、そうだよな

時雄 そ、そうそう、いきなり上手くいくわけないよ

時雄 えー、だって、逆の立場にたって考えてみたらいいじゃない？雇いたいと思う？

時雄 ・・・

時雄 思う！思うなー、私、思うなー。

時雄 ・・・ま、まあ、がんばるさ。まだ一日目だ。

時雄 そうだよ！

菊、入場。

菊 ただいま

時雄 おかえりなさい

時雄 おかえりなさい。

菊 はあー疲れた

菊 ・・・

菊 ただいま。

時雄 何で働いてるんですか？

菊 え？

希喜 それでまた体壊したらどうするの？

菊 大丈夫だよ

希喜 保証できないでしょ？

時雄 おい希喜

菊 どうしたの？希喜。

希喜 心配してあげてるんだよ。もつと休んでなよ、つて。

菊 うん。ありがとう。どうしても口が悪いの？

希喜 別に。

時雄 お姉ちゃん、おかしいよ。

詩、入場。

詩 ただいまー。いやー疲れた。ややこしいんだねえ就活つて。彼氏ほしい。あ、お母さん、クリスマスなんだけども。あれ？どうしたの？

希喜 おかえりなさいーい。あ、ねえお姉ちゃん

詩 なに？どうしたの？

時雄 やめなよー！

希喜 なにを？

時雄 どうしちやつたの？ねえ

瑠璃、入場。

瑠璃 おかえりなさいー・・どうしたんですか？

時雄 なんか、お姉ちゃんが

瑠璃 どうしたの？希喜ちゃん。

希喜 別に。

瑠璃 何か嫌なことでもあった？話してみようよ

希喜 あのさー・・・

瑠璃 ん？

希喜 家事手伝ってくれて、ありがとう、つて思いますよ。でも、なんで、仕切ってるんですか？

瑠璃 しきってる・・、つて

希望 あー、ごめんなさい、私の勘違いでしたー。騒がせてすみませんでした。

希望 どうしたの？

希望 別に・・・。

希望 お母さんにも、話せない？

希望 ・・・・ごめんなさい。

希望 悪いことしてるとって自覚はあるんだね。

希望 ・・・・

希望 私のこと、気に入らないの？

希望 ・・・・

希望 私、家族じゃないかもしれないですけど、ちよつとでも、幸せになれるようがんばりたい、って思ってます。
余計なお世話だよ！

希望 希望？

希望 幸せになったからって、どうなるのさ。え、みんな、幸せになりたいの？

希望 そりゃあ・・・

希望 幸せの内容にもよるさ。

希望 お兄ちゃんは？

希望 え？

希望 お兄ちゃんは、今日、外に出てみて、ひきこもってるのとどっちが幸せだった？

希望 それは・・・

希望 きちんと生活できた方がいいに決まってる！

希望 それを決めるのは瑠璃じゃない！

希望 俺は・・・家族が大事だよ。だから、みんなが幸せになればいいんだ。

希望 ・・・・

希望 そうだよ。

希望 お姉ちゃん。

希望 じゃあ・・・幸せになったら、それからどうするの？

希望 そのままでいいじゃない。

希望 違うよ。幸せになったら、その次が待ってるんだよ。お兄ちゃんが、お姉ちゃんが働きにでて、そしたらいつか恋人ができて、

お母さんだって再婚相手が見つかるかもしれない。環境が変わっていつ、それで、だんだんみんなばらばらになって、今の生活が終わって、

そののどこがいけないの？

希望 今のままでも、いいじゃない。

瑠璃 そんなこと、できるわけないでしょ？

希喜 ……

菊 希喜は、それくらいわかってるよね？

希喜 ……うん。

菊 いい子。

希喜 わがままなのは、わかってるよ。でもさ、今年のクリスマスくらいさ、みんなで落ち着いて過ごしたいな、って…。

慧 私も！！

時雄 慧。

慧 私も、希喜姉ちゃんと同じで、みんなと一緒に過ごしたい。

希喜 慧。

慧 ありがとうお姉ちゃん。私も、ずっと言いたかったの。でも、言っちゃいけないって思ってた。

詩 ……本当なら我慢するところだけだね。

時雄 慧より先に言っただうするんだよ。

菊 まあ、希喜もまだ子ども、ってことだね。

希喜 ……ごめんなさい。

慧 ううん。ありがとう。

暖かい家庭。

瑠璃 こっさり退場。

それに気づいて希喜、退場。

転換。

【12】役目を終えて

希喜、瑠璃。

希喜 どこいくの？

瑠璃 ううん、別に。

希喜 ……なんか、ごめんなさい。

瑠璃 こっちこそ。変に喧嘩してごめんなさい。

瑠璃 煽ってたでしょ、私。

希喜 ……え？

瑠璃 希喜ちゃん、おとなしいからさ。喧嘩してやろーって。

希喜 うそ。

瑠璃 本当だよ。ね？

茂吉、入場。

希喜 お父さん。

茂吉 俺が、瑠璃ちゃんにお願いしたんだ。

希喜 どうしてそんな。

茂吉 希喜には、刺激的な日々を過ごしてほしい、って言っただろう？

希喜 う、うん…

瑠璃 内にためてるだけじゃだめなんだよ。ちゃんと、ぶつかっていかないと。

茂吉 ちゃんと、希喜の勇姿、みてたぞ。隼のために、わざとあんなことしてたんだろ？

希喜 ……違うよ。

瑠璃 ここでまで意地張らなくていいじゃない。

希喜 ううん、本当に。私も、家族が終わるのが、嫌なの。

茂吉 それでもな、物事にはいずれ、終わりがやってくるんだよ。

希喜 嫌だよ。

茂吉 それに、新しい始まりだって、待っているんだから。

希喜 そんなの、綺麗事だよ。

茂吉 綺麗事でも、事実だ。寂しいだろうけど、わかってくれ。

希喜 ……うん。

茂吉 よしよし。あ。瑠璃、ちよつと、家庭内でしか話せない話があるんだ。

瑠璃 はい。

瑠璃、退場。

希喜 何？

茂吉 あんな、次のサンタは、希喜しかいないと思うんだ。

希喜 ……え！？

茂吉 サンタに一番大事なのはなんだと思う？

希喜 ・・・・子どもを、大切に思うきm

茂吉 違う。きづかれないことだ。

希喜 え、あ、うん。

茂吉 父さんが死んで、ひたすら人目を避けて育ってきた希喜には、その素質がある。

希喜 え、うそうそうそ

茂吉 それに、時雄も、詩も、サンタっぽくない

希喜 私もだよね・・・？

茂吉 後、父さんのことを一番わかってくれる、希喜に、継いでほしいんだ。

希喜 ・・・・ずるい。

茂吉 いいじゃないか。一生のお願いだ。もう死んでるんだけどさ。

希喜 ・・・・まあ、やってみるだけ、うん。

茂吉 よし。これで、思い残すことはもうない。

希喜 ・・・・え？

茂吉 ごめんな。さよならだ。

希喜 うそ。

茂吉 本音でぶつかれば、終わらない仲間ができるさ。死なない限り。

希喜 ちよ、まって、まだ、私、きちんと

茂吉 楽しく過ごすんだぞ。

希喜 お父さん！

茂吉、退場。

希喜 ・・・・私、まだ、言いたいこと、たくさん・・・あったのに・・・

転換。

クリスマススイブ。

家族達、プレゼントを持って出てくる。

希喜は一人たたずんでいる。

家族連携でプレゼントを配っていく。

希喜にもプレゼントが回ってくる。

プレゼントを届けに行く希喜。

【13】 物事の終わり

舞台前に猛、怜花。
奥には家族と瑠璃。

怜花
はあ

猛
どうした？

怜花
せつかくのクリスマスに私、何してるんだろうって。

猛
悪かったよ。

怜花
いえ、いいんです、特に予定もなかったんで
好きな人くらいいるんじゃない？

猛
いませんよ

怜花
そうなんだ。

怜花
さみしい。寒い。死ぬ。

猛
しょうがないな。

怜花
え？

猛
付き合ってもらったお札に、ご飯でも。おごるからさ。

怜花
・・・え、いやいいです

猛
え！

怜花
や、別に私たちそういうのじゃないですし
それは、もちろん、そうだよ！

猛
え、ちよつと、興奮しないでもらえますか？

怜花
誤解だ！うわー！

希喜、前へ。

希喜
騒がしいと思ったら、怜花！それに、猛さん

怜花
あ、希喜ー助けてー

猛
誤解だ！

詩 どうしたの？だ、だ、猛くん！

猛 よ、よお

詩 な、なんでうちの場所知ってるの？

詩 無理矢理連れてこさせられたんです。

猛 あっ、ちよっ

詩 うれしい！

詩 えー

希喜 これがただしイケメンに限る、か。

怜花 えー？

猛 いきなりきちゃってごめん。

詩 ううん、全然！あ、今日なら大丈夫だけど勉強会

猛 そうなんだ？

詩 うん！せっかくだから、あがつて、あがつて！…あ、家族はいるけれど…いい？

猛 へ？

怜花 おっ

詩、怜花、退場。

猛 ……あれ？

希喜 どうしました？

猛 胸、苦しくないな…あれ…？

希喜 ああ、きつと、幽霊から解放されたんですよ

猛、退場。

希喜 こうして、クリスマスを通して、私たち家族は一度バラバラになりかけながら、死んだお父さんとか、瑠璃とか、

サンタクロースだとかによつて、また一つにまとまることができたのでした。

はあ。あんなに、関わらないようにしてきたのに。私にしか見えないなんて、ずるいよ。お父さん。

家族・瑠璃 希喜！

希喜 はーい！

希喜、家族のところに戻ろうとする。

希喜
・・・って、うわー!!!

家の中が変わる。

慧
ど、どうしたのお姉ちゃん!

希喜
なんだ今の! いやいやいや! だめでしょ!

時雄
落ち着け。

希喜
何期待に満ち溢れた感じになってんの私! うおおお
どうしたの?

瑠璃
希喜ちゃん、変だよ!

怜花
このまんまじゃ、終わっちゃうじゃん!

希喜
何言ってるの?

詩
終わる?

瑠璃
いかにも、トラブル乗り越えて、ハッピーエンドです! みたいじゃん! やだやだやだ!

希喜
それで、いいんじゃないの?

菊
クリスマスくらい、家族でゆつくり過ごしたいって

時雄
うん、言ってたよね

慧
あ、僕が家族じゃないからですか・・・?

猛
猛くんは大丈夫

詩
・・・わ、私だー!

怜花
うるさいな

瑠璃
家族でゆつくり過ごしたいっていうのは、慧がそう思ってたから、叶えてあげただけだもん!

希喜
いいお姉ちゃんだね。

菊
慧!

希喜
はい!

慧
クリスマス、ゆつくり過ごせたとと思う?

希喜
お、思うよ! ありがとうお姉ちゃん!

慧
どういたしまして! このままではいけない! 次の幸せに向けて、またバラバラになる!

希喜

菊 そんなことわからないでしょう
 希喜 でも、大丈夫な保証もない！・・・あ。
 時雄 なんだ？どうした？
 希喜 わかった。家庭内に、問題があればいいんだ
 詩 何言ってるの？
 希喜 お姉ちゃん！
 詩 な、なによ
 希喜 猛先輩って、お姉ちゃんの好きな人？
 猛 え！
 時雄 なんだと！？
 詩 ちょーちが！違うよ！何言ってるだろうねこの人は！
 希喜 違うんだー
 詩 いや！その！なんていうか！
 猛 え！
 希喜 お姉ちゃんに残念ながらお知らせがあります
 詩 やだやだやだなに
 希喜 猛先輩、私に、アプローチかけてきてましたー！
 猛 え！
 詩 えー！
 怜花 いやあああー！
 時雄 なんだとー！？
 猛 うわああああー！
 時雄 うちの妹は、やらん！
 詩 時雄！待って！
 時雄 はい！
 詩 違うの、私が、猛くんを好きなの！
 猛 え！
 怜花 ひやー！
 時雄 なん・・・だと・・・
 瑠璃 これが、世に聞く、修羅場・・・
 瑠璃 すげー

菊 静まりなさい。

彗・瑠

はい。

猛 須永・・・

詩 こ、こんなタイミングでごめんなさい。

希喜 でも彼は私にアプローチをかけていましたー

詩 うっ、ぐっ

猛 いや、あの、それは！

希喜 猛せんばあい、私と、お姉ちゃん、どちらをとるんですか？

怜花 希喜ちゃん、だめだよ、こんなことしたら！

希喜 あんたはどっちの味方につくの！

怜花 え、ええ？どっちも嫌だ・・・

希喜 じゃああたしね！

怜花 は、はいー。

詩 猛くん・・・

猛 いや、そもそも俺、今、どっちも好きじゃない状態なわけで、選ぶも何も・・・

時雄 お前ー！うちの妹を好きじゃないだー！？

猛 うわあー！ど、どうしたらいいんだー！

瑠璃 希喜ちゃん、やめなよ

希喜 瑠璃！

瑠璃 お父さんも、悲しむよ！

希喜 お父さん・・・はっ！そうだ！私は、サンタを、継ぎません！！

茂吉、入場

茂吉 希喜！なんてことを！

希喜 やった！

瑠璃 お父さん！

茂吉 成仏したはずなのに、未練ができて、降臨してしまった！

瑠璃 なんてことなの！

希喜 うまくいくとは思わなかった！

彗 お、お姉ちゃん、誰と話してるの・・・！？

希喜 ここにねえ、お父さんがいるんだよ
 菊 お父さんが・・・？
 茂吉 お前・・・
 菊 悪い冗談はやめなさい、希喜。
 瑠璃 いや、本当なんですよ
 茂吉 先に逝っちまって、悪かったな。
 瑠璃 先に逝っちまって悪かったな、だって。
 希喜 もうちょい、気持ちこめてあげなよ
 菊 ・・・・うっ (涙)
 瑠璃 お母さん！？
 菊 私だってねえ、色々つらいことがあってねえ！
 瑠璃 お母さん！
 希喜 さあて次だ！へっへっへ！お兄ちゃんのパソコンでもぶち壊してやろうか！
 時雄 待て！希喜！
 希喜 何さ！
 時雄 お前は、要するに、何かが終わってしまうことが嫌なんだな？
 希喜 そうよ！
 時雄 わかった。俺に任せておけ。
 希喜 え・・・？
 時雄 ひきこもっている間、俺はいくつものマンガを読み漁りゲームをクリアし続けた
 詩 金ねえのに・・・
 時雄 終わるパターンは、熟知している！
 希喜 ・・・・お兄ちゃん！
 時雄 それに、大好きな妹のためだ。力にならせてくれ！
 希喜 どうしたらいいの？
 時雄 引き延ばすんだ！だから過ごすんだ！うおおー！ (だらだら)
 希喜 なるほど！うおおー！ (だらだら)
 瑠璃 お姉ちゃん！
 希喜 なーにー (だらだら)
 瑠璃 こんなこと、もうやめてよ！
 希喜 いーやーだー

彗 どうして！それにだらだらするのやめて！

希喜 彗だつて、終わつてほしくないって言つてたじゃない。

彗 終わつてほしくないとは思うけれど、だからつて、幸せになりたくないわけじゃなくて・

希喜 幸せになりたいの？

彗 うん

希喜 なろうとしても、ああなるんだよ？

詩 ああ、つてなんだよ

希喜 全部の気持ちが出うわけじゃない

詩 それは、そうだけど・

彗 でも、いつか幸せになるために、仕方ないんだよ

希喜 幸せになったら、次にはさらなる不幸がまつてるんだよ。ほら。お母さん、泣いてるでしょ？

彗 お母さん。

希喜 お父さんの幽霊と会えて、うれしいのかな。でも、お父さんはいつか成仏するよ。

菊 それでも、うれしいものはうれしいよ

希喜 でも、いなくなつちやうんだよ！

忘れないもの。

母さん。

茂吉

希喜

彗 お姉ちゃん？

希喜 本当に、忘れないでいられる？お父さんが死んで、今日まで、まったく忘れてなかったって言える？

菊 それは言えないけど・

希喜 死んだら忘れられちやうんだよ。ちよつとずつ消えていつちやうんだよ。

・・だからといって、終わりにくい理由にはならないよ。

彗 そ、そうだよ！それに、私は、希喜姉ちゃんにそんな悲しいこと言わないでほしい！

希喜 そう・・彗、あなたが私と敵対してくれるのね。

彗 え！

希喜 悪い奴がいるだけじゃ、それはそれで終わつてしまうもんね。さあ、かかつてらっしゃい

彗 かかつて、つて、え！

時雄 なんてことだ・・妹達が・・！俺は、どっちの味方についたらいいんだ！

彗 お兄ちゃん

希喜 お兄ちゃんっ（濁）

時雄 彗！俺が悪かった許してくれ！

希喜 なんでだちくしょう！

怜花 よし、じゃあ、私も

希喜 そう・・・みんな、私の敵に回るんだね。でも、それでいい。私が負けなければ、幸せになることはない。終わることがない。

瑠璃 それは、だめだよ、希喜ちゃん。

希喜 ……どうして、私の考えていることが？！

瑠璃 私、人の心が読めるの。

希喜 なんでもありか！

瑠璃 それじゃあ、希喜ちゃんが幸せになれないじゃない。

希喜 いいの、私はそれで。

瑠璃 よくない！希喜ちゃん。私は、あなたの味方だよ。

希喜 だ、だめだよ！敵に回ってくれないと！

瑠璃 ううん、私は味方。希喜ちゃん、あなたは一人じゃないわ。

希喜 私の味方だというのなら敵に回ってくださいー！

茂吉、希喜の後ろに回る。

茂吉 ふははははは！

希喜 お父さん！？

瑠璃 ん？ん？

茂吉 よくやった希喜。貴様はもう用済みだ！

希喜 ……何を言っているの？

茂吉 そうだな、希喜、貴様は、この世とあの世の境で永遠にさまよってもらおう！

希喜 いや、は？

瑠璃くん、ここからは私が相手になろう。

希喜 どうしちやったのお父さん

茂吉 （こつそり）お父さんは希喜の味方だ。希喜が終わりたくないっていうんなら、終わらせないさ。

希喜 ……つながらないよ！

茂吉 いいか、続編には、新たな敵が必要なんだ！

瑠璃 ということは、おじさんが、新たな敵！？

茂吉 そういうことだ！さあ、かかってくるがいい！

瑠璃　　えい！（たたく）
茂吉　　幽霊だから、きかん！
瑠璃　　そんな！えい！（たたく）
菊　　あの人が何か言っているの？
瑠璃　　なんか、おじさんが、新たな敵になる、って
あなた・・・？
瑠璃　　くそう、きかないなんて！（たたく）
　　や、やめろー！
　　慧ちゃん！？
　　私、やつぱり、お姉ちゃんの味方する！
　　慧まで！？
　　だって、お姉ちゃんは私の味方をしてくれていたんだもん！
　　や、やめてよ！私の味方なんてなくていいの！
　　そうか。そういうことなのね。

菊、慧を捕まえる。

　　慧　　うわー！え、どうしてー！
　　菊　　ごめんなさいね、慧。私は、あなたの本当のお母さんじゃないの。
　　慧　　えー！嘘だー！
　　時雄　　嘘だよ？
　　菊　　え、あ、ほ、本当だよ
　　瑠璃　　どうしたんですお母さんまで！
　　菊　　とにかく慧！希喜の味方をするというのなら、子供といえども、あなたは敵よ！
　　慧　　そんなー！いやだー！
　　希喜　　お、お母さん・・・！？
　　菊　　さあ、瑠璃ちゃん、一緒に世界の敵をバニッシュしましょう！
　　茂吉　　でかした。
　　慧　　こういうことでもいいのよね、あなた！
　　時雄　　いやだよー！助けてー！
　　妹よ！

時雄、彗を奪い返す。

彗 お兄ちゃん！

時雄 母さん！悪いが僕はシスコンだ！妹の敵となるのなら、肉親といえども、倒す！

菊 こうなることもまた宿命

希喜 お母さん！キャラクターが迷子だよ！

菊 せいやっせいやっ

瑠璃 落ち着いてくださーい！

希喜 どうしちゃったのみんな！

茂吉 希喜のためだよ。

希喜 え…？

詩 ああ、そういうことか（部屋から出てくる）

猛 須永！

希喜 お姉ちゃん！

詩 あのさ、みんな須永だから、詩、って呼んでくれる？

猛 詩！

詩 （照れる）

猛 いったい、何が起きているんだい？

詩 なんでもいいんじゃない？

怜花 なんだか、まったくついていけないよ

詩 あなたは、希喜の味方？

怜花 そうなっちゃってますね。

詩 それならよかった。私、希喜と敵対しますんで。

希喜 お姉ちゃん！？

詩 だから、味方してあげてください。

怜花 え！

希喜 え！って。嫌なの？

詩 ううん、いやじゃないよ。だって、私達、友達じゃない。

希喜 さあ、希喜、猛くんを賭けて、勝負よ！

希喜 どうしてそんなことに！

猛 僕のために争うのはやめてー！
 時雄 貴様この期に及んで！
 猛 うわああー！
 瑠璃 色々起こりすぎているよー！
 詩 さあ、ほら、選びなさい！
 猛 ぼ、僕は…どっちも、そんな…
 詩 さあさあ！
 猛 うっ
 詩 わあ…
 菊 彗にはまだ早い。
 彗 そんなことないよう
 猛 はっ
 彗 えっ
 猛 かわいい…
 詩 えっ！うそっ！
 猛 君は…？
 彗 あ、妹の、彗です…
 猛 彗…素敵な名前だ。
 茂吉 うーん、事実は小説よりも奇なり、だな
 希喜 ねえ、何なの、いったい。
 茂吉 まだ気づいていないのか。まったく。
 希喜 え？
 茂吉 これだけいろいろ起こったら、しばらくは終わらないだろう。
 希喜 あ…
 茂吉 みんな、希喜のために、やってくれてるんだ。
 希喜 だめだよ…やめてよ…
 時雄 どうした？
 希喜 私の味方になんてならないでよ。私のことなんて考えてくれなくていいよ。お願いだから。
 彗 嫌だよ、味方になるよ。
 菊 どうしてそんなこと言うの？
 希喜 幸せになっちゃうよ。みんなのこと大事に思っちゃうよ。大切な人になっちゃうよ。

茂吉 前からそうじゃないか。

瑠璃 替ちゃんのためにわざと態度悪くしてたじゃない。

詩 想っちゃったらもう無理だよ。好きになっちゃったらしょうがないじゃん。

猛 そうだよ、お姉さん

詩 お前。

菊 私達は、希喜のことが大切だよ。

時雄 そして好きだ。

彗 お姉ちゃんは、私たちのこと、大切じゃないの？

希喜 …大切だよ…

時雄 やつと認めたか。

詩 あたしたちだって、失うのは怖いんだからね？

菊 だからがんばるんじゃないの。ばらばらにならないように。

彗 私も、希喜姉ちゃんのこと失いたくないし、それに、嫌いにもなりたくないよ。だから、お願い。

希喜 …わかった。

彗 やった！

うん。少しでも、この幸せが続くように、悪あがきして引き延ばしていこうよ。

希喜

一安心。ひと段落。
転換。

茂吉 希喜

希喜 何？

茂吉 俺もさ、もう少し、ここにいろよ。

希喜 …うん、ありがとう。

茂吉 ていうかさ

希喜 うん。

茂吉 …成仏って、どうやるの？

希喜 え！？知らないよ！なんかしてたじゃんさつき！

茂吉 いや、あれは、ああいえば希喜、サント継いでくれるかなって

希喜 じゃあなんでもなくなったの！？

茂吉 雰囲氣的に、出てこれないだろ！ああ言ったら！

希喜 バカだなあ

茂吉 親にむかってバカだと！

希喜 じゃあ、いつまでかわからないけれど、ここにいるんだね。

茂吉 そうなっちゃいます。

希喜 ……そしたら、色々話そっか。いなくなっちゃう前に。

希喜、茂吉、椅子に座る。

音楽が大きくなる中、二人は話をし始める。

話は、いつまでも続いていく。

幕

※ 上演を希望する際は有料・無料に関わらず必ず劇団までご連絡を頂き、戯曲使用の許諾をお受けください。

tasuichi.tasuichi@gmail.com